（別紙様式４－１）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（県立高等学校・中学校用）

熊本県立八代工業高等学校　定時制課程　令和元年度（２０１９年度）学校評価計画表

１　学校教育目標

本校の校訓「誠実」を基柱とし、教育庁の平成 31 年度（2019 年度）「教育指導の重点」並びに「取組の方向」に則り、家庭、地域、学校が連携・協力により、生徒の「夢実現」に向けた教育活動を推進・充実し、生徒の「生きる力」を育成する。

〇基礎学力と基本的生活習慣の充実・定着
〇地域に愛され、地域とともにある学校づくり
〇キャリア教育の推進と自己実現
〇常により良いものへと向かう姿勢の育成　NEXT　ONE

２　本年度の重点目標

（１）基本的生活習慣の確立と豊かな人間形成の醸成　（２）基礎・基本を重視した学力の定着と向上
（３）人間形成の場としての体育・文化活動の充実　　（４）キャリア教育の充実と自己実現
（５）安全教育・健康教育、危機管理の充実　　　　　（６）校務整理と業務改善

３　自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	「働きながら学べる学校」の推進	・多様な生徒の実態に即した指導	・きめ細かな生徒の実態把握と個別指導の充実	・毎月の生徒情報交換会 ・生徒面談の重視、状況に応じ、各教育機関との迅速な連携	B	・毎月の生徒情報交換会には SSW も参加することで、各教育機関と迅速な対応ができた
	教職員の資質向上	・校内研修の充実	・分掌部の組織的・機動的取組の再構築	・分掌部会の開催と計画的な研修の実施	B	・計画的に分掌部会を実施し、迅速に課題に取り組んだ
学力向上	学校生活への意欲向上	・出席率の向上	・生徒の年間出席率平均８５％以上	・毎月の情報交換会で、出席等の状況を全職員で共有する ・生徒への授業や行事の予定表を掲示する	A	・情報交換会で担任を中心に欠席の多い生徒に対する対応を行った ・生徒ロッカーの横に授業予定を掲示した。 ・全体の出席率は、休学者を除くと93.5%と向上した
	学習への意欲向上	・授業の充実	・わかる授業の実践 ・授業時数の確保 ・基礎学力の把握	・生徒による授業評価や全職員による研究授業を実施する ・行事予定をもとに、授業の偏りがないよう調整し、授業の予定時数を全職員へ周知する ・新入生考査やベーシックタイム確認テストの結果を分析し、全職員で共通理解を行う	B	・授業評価は１学期、２学期に１回ずつ行い、研究授業は参観者のアドバイスを全体で共有できるようにした ・授業数の偏りがないように曜日調整し、最大差は４日分であった。授業予定時数は各学期ごとに全職員へ周知した ・新入生考査とベーシックタイムテストは、正答誤答を細かく分析した結果を全職員で共通理解する機会を設け、学習指導や支援に活かした

		・基礎学力の定着	・ベーシックタイムの実施 ・夏期課外授業の実施	・国語、数学、英語の課題を２か月程度取り組み課題をもとにしたテストを実施する ・夏季休業中に、教務部・進路部と連携し、課外を実施	B	・課題に取り組む時間を2か月間計30回以上設けた。26.7%の生徒が30人中8人が全問に取り組み、36.7%の生徒が20回以上取り組んだ ・課外の事前テスト問題を作成し、進路指導部の計画に基づき課外を行った
キャリア教育・進路指導	進路保障と進路先開拓	・生徒の実態を踏まえた進路決定	・就職希望者の適性を踏まえた就職内定 ・就労体験の実施と職業観の育成	・ハローワーク、障害者就業・生活支援センター等関係機関との連携 ・就労体験などを通した生徒の適性を把握 ・企業見学実施 ・就職情報報告会実施	B	・生徒の希望に沿って公務員課外基礎学力、就職対策高卒認定試験などを実施、進路希望先合格につなげた ・インターンシップは一度も就労経験のない生徒が進路を考える機会となった ・企業見学会は生徒から活発な質問が相次ぐなど進路先を考える貴重な機会として定着した
		・進学希望者の志望校への合格	・４年制大学への合格	・課外、模擬試験実施など進学学習指導の充実	B	・進学希望者が多く、各自の希望に沿った個別指導を行い一定の成果をあげた
生徒指導	自己管理能力の育成	・社会、学校のルールの遵守	・遅刻、欠席をせずに登校できる ・高校生らしい服装・頭髪である ・ＳＮＳ等の正しい活用法の定着 ・交通事故と特別指導の未然防止	・毎月の登校指導や個人面談 ・定期的な頭髪指導 ・各種講演会の実施（情報安全教室、交通用具安全点検、交通安全実技講習会、薬物乱用防止教室等）	B	・遅刻件数は昨年度の同時期に比べて 41.5%減であった ・ＳＮＳ上でのトラブルがあった。次年度は生徒指導部通信等を発行し、さらなる啓発に努めたい ・今年度交通事故３件と増えたが、特別指導０件であった
	豊かな人間形成	・コミュニケーション能力の向上	・自ら挨拶をすることができる。 ・自他を尊重することができる。 ・ボランティア活動に積極的に参加できる	・毎月の登校指導、挨拶運動 ・ＳＳＴの実施 ・ボランティア参加の呼びかけ	B	・挨拶をする生徒は増えている。しかし、自他尊重の観点では、他人に嫌なことを言ったりした生徒が全体の 17%と昨年度 6%より増加したのが課題である ・ボランティアの参加人数は今年度は延べ 15 名（昨年度は 6 名）と昨年度よりも多くの生徒が参加した
人権教育の推進	人権教育推進体制の確立	・教職員の実践力向上	・全職員の年１回以上の校外研修参加 ・校内人権教育研修会の実施	・全職員への校外研修紹介及び参加とその復講 ・校内研修の多様化及び内容について管理職との連携強化	B	・校外研修には職員の協力もあり、多くの職員が参加した ・今年度は新に「旧優生保護法」の問題を取り上げることができた

	人権意識向上	・人権教育内容の精選	・各年次毎の人権教育ＬＨＲ計画作成 ・様々な人権問題研究紹介	・人権教育推進委員会を中心とした学習指導案の原案作成	B	・各年次ごとの人権教育LHRの計画作成が不十分であった。来年度は卒業年度までを見通した計画及び実践を行っていきたい
	命を大切にする心を育む指導	・自他の命を大切にする心の育成	・仲間づくりの推進 ・自己肯定感や自尊感情の向上 ・特別支援教育の充実	・各種ワークショップ、コミュニケーション能力向上のための講演会等の実施 ・できたという経験の取組 ・教育相談係、SC、SSW等との連携	B	・いろいろな活動を通してコミュニケーション能力の向上を図ることができた。・外部との連携を取った指導ができた
いじめの防止等	いじめの防止等	・いじめについての認識と理解	・いじめの場面を見た時に、注意できる生徒の育成 ・自己理解・他者理解の向上 ・いじめゼロ	・安心して生活できる集団生活のルールの確立 ・ＳＳＴ・情報安全教育の実施 ・あらゆる機会をとらえいじめについて考える場面の設定	B	・学年を越えてコミュニケーションを取る生徒が増えた ・昨年度はなかったいじめが今年度1件認知したが解消した ・SSTなどの実施により、自他の理解やアンガーマネジメントを身につけさせた
	いじめの実態把握	・いじめの認知 ・早期発見、解決に向けた取組	・いじめの早期発見と対応 ・いじめの解決 ・いじめに対する学校家庭の連携協力	・学期ごとのアンケートを実施し、検証する ・全職員での情報共有 ・面談週間の実施 ・防止対策委員会の開催 ・いじめ匿名通報アプリの導入 ・心のケア	B	・職員で生徒情報を共有することができた ・アンケートの実施により、いじめを訴える記述から早期対応ができた
地域連携（コミュニティスクール等）	学校・保護者・地域との連携	・防災型コミュニティ・スクールとしての連携 ・安全管理	・全日制と協力した避難所運営マニュアルの関係者への周知 ・避難訓練・防災意識の高揚	・地域と連携した防災避難の改善や防災に関する教育活動の実施 ・家庭への連絡の徹底 ・地域の就労先との連携	B	・地域や家庭との連携した防災教育は不十分であったが、例年よりタイムリーな防災教育を実施することができた
	開かれた学校作り	・定時制高校の魅力発信	・学校説明会等の充実実施 ・ホームページによる本校の魅力発信 ・地域の資源を活用した教育の充実	・くまもと教育の日とオープンキャンパスの実施 ・ブログ等の更新と内容充実 ・関係機関と連携した学校行事の開催	B	・学校行事等を詳細にブログに掲載し定時制の魅力を効果的に発信できた ・校外体験学習では三角・天草地域の世界遺産や観光資源を有意義に学習できた

健康教育	基本的生活習慣の育成	・生活習慣確立の必要性を啓発	・手洗い、うがい、風呂に入る、食事は３食食べる、夜１時前に就寝することの自覚を促し、行動変容を目指す	・日常の生活状況を内科検診時の問診票にて把握する ・食育授業を通じ、自己管理する力を養う	B	・問診票やアンケートを実施し生徒の生活状況を知ることができた、睡眠時間の確保が課題である ・食育では、生徒が精一杯取り組み、食の大切さを知ることと、自己管理する力を養うことにつながった
学校行事等の充実	学校行事の活性化	・生徒の主体的な活動を促進	・学校行事参加率を８０％以上にする ・生徒が自己肯定感や自己有用感を持つ	・体育大会や文化祭、校外体験学習等、行事の内容を早期に伝え、LHR等を通じて意義を知らせる	A	・学校行事への参加意欲が高まり、89.6%の参加率であった
		・ＰＴＡと連携した行事の取組	・ＰＴＡ主催行事の実施と保護者参加率アップ ・学校新聞の活用	・関係分掌と連携した学校行事の実施 ・保護者の行事への参加体制の確立	B	・保護者茶話会の実施により保護者の親睦も深まり、ＰＴＡ行事に多大な御支援をいただいた。
	生徒会行事と部活動	・生徒会活動の充実（定通文化大会を含む）	・生徒会の取組を活性化させ、学校行事が充実したものにする ・自ら進んで参加する意欲的な生徒の育成 ・クラスマッチ等の実施	・生徒会執行部のリーダーシップの育成と積極的に取り組める体制の構築 ・生徒全員が活躍できる学校行事の企画・運営	B	・生徒会役員のリーダーシップにより、学校行事が、活気あるものになった ・生徒の学校行事への出席率が向上した
		・部活動の充実（定通体育大会を含む）	・活動の活性化	・活動しやすい環境の整備 ・通年の活動ができるよう指導・助言	A	・通年の活動をすることができ、参加する生徒数も増えた ・全国大会に８名の生徒が出場した

４ 学校関係者評価

（１） 生徒の様々なニーズに対して、教職員一人一人が寄り添い、きめ細やかな指導の成果が、出席率の向上、遅刻者の減少、基礎学力の定着などの成果として現れている。

（２）魅力ある学校行事の取組の成果が、課題であった学校行事への参加率の向上につながっている。このことは生徒一人一人の個性を発見・発揮する機会やコミュニケーション能力の向上等にもつながっている。

（３）全国定時制通信制体育大会へ５名の生徒が出場しており、年間をとおした部活動の取組における生徒の努力の積み重ねと、それを指導されてきた教職員の成果である。

（４）昼夜を問わず生徒の人格形成、自己実現への道を切り拓き後押しされている学校長をはじめ教職員の献身的かつ教育者としての矜持に対して敬意を表する。

（５）公開授業に参加して、落ち着いた雰囲気で授業に取り組む姿勢が良いと感じました。地元企業として何か支援したいと思った。

５ 総合評価

総括的に見て、本年度の学校目標は概ね達成された。

（１）設定目標２１項目のうち昨年度よりＡ評価が２つ増え、Ａ評価からＢ評価へ下げた項目が１つであった。全般的に昨年度の課題に対して継続的して取り組んだことが成果につながった。

（２）成果が現れた「学校生活への意欲の向上」の項目では、毎月職員とＳＳＷ、ＳＣの生徒情

報交換会を実施し、専門家の意見を踏まえ教職員が組織的に生徒の課題に取り組むことで長期欠席者が減り、成果として生徒の年間出席率が93.5%と昨年度より7P上昇した。

　また、アンケートの結果では、「積極的に授業に参加している生徒」が82%と（H30　53%）と増加しており、アクティブラーニングやＩＣＴの導入など、少数学級の特色を活かした授業改善の取組の成果が出ている。

（３）「学校行事の活性化」の項目では、生徒会主体の運営に、教職員が支援・指導することで学校行事の活性化に取り組んだ成果として、学校行事への参加率が89.6%と9P向上した。また、この取組は、生徒の自主性・主体性の育成と自己有用感の醸成につながった。

（４）「いじめ防止等」の項目では、本年度は１件いじめを認知したので昨年度のＡ評価からＢ評価にした。いじめは解消したものの、いじめ防止対策と早期発見、早期解決に向けた取組を改善していく必要性がある。

６　次年度への課題・改善方策

各項目の課題を再整理して、課題の要因を明確にして学校全体で組織的に取り組む。

（１）生徒の学業とアルバイトの両立、家庭学習の習慣化が課題である。個人面談や調査を継続的に行い、精神的な支援、家庭学習状況の把握及び定期考査対策に取り組む。

（２）生徒の多様なニーズに応じた進路指導の充実が課題である。状況に応じてＳＳＷや行政との連携を図り、保護者の理解を求めながら、学力向上や人間力・コミュニケーション能力を育む進路指導が必要である。

（３）生徒の食生活や睡眠等の生活習慣の改善が課題である。生徒一人一人に寄り添った健康教育や保健指導の充実を図り、病院受診においては家庭への理解を促すなどの取り組みを行う。